

平成23年度 全国学力・学習状況調査の結果について

笠間市立稲田小学校

	主な成果と課題 (○良かった点 ●課題点)	改善の方向性
国語A:(主として知識)	<p>○漢字の読み書きに関する問題は6問中5問が正答率9割以上であった。</p> <p>○「スピーチの内容の取り上げ方のよいところを説明したものとして適切なものを選択する問題」や「文と文、段落と段落との接続関係が整うように適切な言葉を選択する問題」の正答率は8割以上であった。</p> <p>●「主語を書き換えて記事の下書きを書き直す」問題や「国語辞典に最初に出てくる言葉を選択する」問題の正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究で「伝え合い」について取り組んできた効果が見られ、話すこと・聞くことの設問では正答率が高かった。 ・今後改善の方向としては、書く活動(適切な言葉で書く、繰り返し書く、短い文で書く、短時間で書く、論理的に書く、効果的に書く)を教育活動の中に組み入れ、教育活動全体を通してなじませていくようにする。 ・辞書を身近に置き、活用を日常化させていく。
国語B:(主として活用)	<p>○「司会として発言を聞き、意見の共通点と相違点を整理して書く」問題や「司会の発言の意図をとって適切なものを選択する」問題の正答率が比較的高かった。</p> <p>●「二つの伝記を比べて読み、登場人物の心情を表している言葉や文を抜き出して書く」や「書き手を適切に選択して書く」問題の正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙を折ったり、切ったりするなどの作業的な活動や探求的な活動を積極的に取り入れ、図形を多面的に見ることができるようになるなど、実感が伴った理解が図れるようにする。 ・長文の読解に慣れさせたり、論理的な説明の仕方を身に付けさせたりするなど、「活用」する力の育成を図る。 ・1時間の授業の終わりに練習問題に取り組ませ、その日その日で学習内容の確実な定着を図る。
算数A:(主として知識)	<p>○19問中12問が正答率9割以上であった。</p> <p>○直方体の面の大きさを選ぶ問題や棒グラフを読み、児童数が最も多い学校名を書く問題は特によくできていた。</p> <p>●100人のうち40%が女子のとき、女子の人数と求める式を書く、百分率の意味についての理解が不十分であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙を折ったり、切ったりするなどの作業的な活動や探求的な活動を積極的に取り入れ、図形を多面的に見ることができるようになるなど、実感が伴った理解が図れるようにする。 ・長文の読解に慣れさせたり、論理的な説明の仕方を身に付けさせたりするなど、「活用」する力の育成を図る。 ・1時間の授業の終わりに練習問題に取り組ませ、その日その日で学習内容の確実な定着を図る。
算数B:(主として活用)	<p>○ゴンドラが下がっていくときの高さの違いを表から読み取るなど、数量関係の問題は比較的好くできていた。</p> <p>●長方形の紙を折ってできた四角形が、どのような図形かを書くような、図形に関する問題の正答率が低かった。</p> <p>●正しいわけや、分かるわけなどを記述する記述式問題の無答率が高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長文の読解に慣れさせたり、論理的な説明の仕方を身に付けさせたりするなど、「活用」する力の育成を図る。 ・1時間の授業の終わりに練習問題に取り組ませ、その日その日で学習内容の確実な定着を図る。
質問票	<p>○朝食をきちんと食べる習慣が身につけていて、学校で友達に会うのを楽しみにしている子の多いことが分かります。</p> <p>●テレビを1日4時間以上見ているが2割、ゲームを1時間以上しているが5割というのが気になります。</p> <p>◇休日に家庭学習を4時間以上している子が1割以上いるのに感心しました。その反面1割の子が全くしていないという実態です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭において、テレビやゲームに関するルール作りをお願いすると共に、家庭学習の習慣化への協力を呼びかける。 ・学校において、家庭学習の成果の見取りを確実に図る。

※主として知識とは・①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容。
②実生活において不可欠であり、常に活用できることが望ましい知識・技能

※主として活用とは・①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
②様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力

